

●第70回 湘南科学史懇話会（2014年10月4日（土）午後2時00分～6時00分）

木村駿吉の業績と生涯

講師:益田すみ子さん(科学史、東京工業大学社会理工学研究科経営工学専攻博士課程)

●講演概要

明治期に物理学者・技術者としての道を歩んだ木村駿吉（きむら・しゅんきち 1866－1938）について紹介する。幕末から明治にかけて、日本は西洋から制度化された科学技術を取り入れ、近代化を成し遂げたと言われる。しかし木村の生涯を通して、それだけではない日本の近代化の姿を見ることができる。

木村の父は、木村撰津守喜毅（せつつのかみ・よしたけ 1830－1901）といい、幕府の海軍伝習所取締として日本の海軍の創設に関わり、西洋の科学技術を日本へ導入する入口で活躍し、また軍艦奉行として咸臨丸の太平洋横断を指揮し、初めて日本人の手による渡航に成功したことで有名である。木村の伯父も代々徳川將軍家の奥医師として公認された蘭医であった。このように木村は、明治維新以前から西洋文化に触れ西洋風の雰囲気になった家で育った。したがって、明治維新後の学校制度の中で初めて西洋文化に触れた多くの科学者・技術者とは異なる。また、父から受け継いだ伝統的な武家文化の中で、自立した個として公への奉仕の精神を大切にすることを学んだ。

木村は、大学卒業後、第一高等中学校で教えるようになるが、このとき講義した内容を教科書や啓蒙書として出版した。その中の1冊である『科学之原理』では、科学教育の導入に科学論や科学史を既にこの時代に教えていたことが分かる。また学生時代にキリスト教信徒となっていた木村は、第一高等中学校の教授であった24歳の時に内村鑑三の不敬事件に巻き込まれ退職せざるを得なくなった。その後アメリカへ留学し、そこで学んだ複素数を拡張した数体系である四元数に傾倒する。木村は、四元数は物理学の基礎とするべき数学であると考え、万国四元法協会の設立に奔走した。明治20年代末という大変早い時期に国際的な学会の創設を呼び掛けていたのである。帰国後は、第二高等学校の教授となるが、4年後には海軍技師として無線電信機の開発に努力する。電磁気学からの発展として興味を持った無線電信機であるが、木村が開発した三六式無線電信機は、海軍の艦船に据え付けられ日露戦争で活躍した。

このように、木村は学界の中樞を歩むことはできなかったが、だからこそ身軽に自らの科学への関心を追及することができ、積極的に学び活躍した。そこには、明治人らしく科学技術による日本の近代化を信じ、科学研究による人類の幸福を求める気持ちがあった。しかしその姿には、木村が育った家に伝わる明治維新以前から続いている伝統的な武家の精神と早くから西洋文科に触れた父の影響もまた生きていた。異端ともいえる木村の生き

方から、政府の手による科学技術導入とは異なる日本の近代化の側面を明らかにすることができる。

●講師プロフィール

益田すみ子（ますだ すみこ）

立教大学理学研究科原子物理学専攻修士課程を修了。中高一貫校で教職に就き、32年間中学生と高校生に理科及び物理を教える。この間、授業を通して日々生徒たちに伝えている科学とは何なのか、また特に日本にとって明治以降導入された近代科学とは何だったのかと考えることが多かった。退職後、科学史を学ぶために東京工業大学の科目等履修生となる。その後、2011年4月より同大学社会理工学研究科経営工学専攻の修士課程に入学。現在は博士課程2年に在学。

●日時：2014年10月4日（土）午後2時～6時

●会場：藤沢市労働会館 第4会議室、〒251-0053 藤沢市本町1-12-17

電話 0466-26-7811 小田急線「藤沢本町駅」徒歩10分、JR「藤沢駅」北口徒歩15分 <http://www.fujisawa-rodo.jp/access.html>

●参加費：1,000円

●連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会・代表） 〒242-0023 大和市渋谷3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 email shujiino@js6.so-net.ne.jp

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>